



伊勢フェニックスプロジェクト
伊勢市内で行うまちづくり
国際ワークショップ合宿

2026 年 3月 1 日～8 日

リベツ工科大学 (TUL)、チェコ共和国 ユトレヒト芸術大学 (HKU)、オランダ
ブラハ美術アカデミー (AVU)、チェコ共和国 名城大学 (MUN)、日本

Vol.2

ADA.TUL.CZ

avu

TUL



HKU

Creative software/digital neural network Virtual futurologist A°D°A is co-financed by the state with the support of the Technology Agency of the Czech Republic as part of the SIGMA project.

WORKSHOP TUTORS



Assoc. Prof. Mgr. A. **Zdeňka Němcová Zedníčková** Ph.D., Czech Republic
MgA. **Jana Bernartová**, Ph.D., Czech Republic
Arch. **Yukiko Iida**, Japan UAP – Urban Asset Placemaker –
BA **Valerie van Leersum**, Netherlands
Ing. arch. **Haruka Kajiura**, Czech Republic/Japn

ONLINE LECTURES



Arch. **Carlo Andrea Biraghi**, Ph.D., Italy
Arch. **Juan Rufino Castillo Molina**, Dr. Eng., Dominican Republic
MgA. **Ida Chuchlíková**, Czech Republic

STUDENTS

Technical University of Liberec, CZ
– Julie Procházková, Ondřej Burda

Meijo University Nagoya, JP
– Haruto Suzuki, Takahito Nishiwaki,
Kosei Futamura, Riko Shimizu, Kaito Taguchi,
Naoko Matsumoto

Hoge School voor de Kunsten Utrecht, NL
– Juna van Dijk, Thaya Callisaya Hilara, Quinten
Rijken, Simon Wijtenhorst, Norah van Lith

Universidad Nacional Pedro Henríquez Ureña Santo Domingo, DR
– Angela Frias, Jordy Garcia

ORGANIZER



Assoc. Prof. **Makoto Tanida**, Meijo University
Gouki Yamamoto, Meijo University



Sun 01. 03.

10:00-12:00 Arrival to ISE CREATER's GARAGE (ICG)

13:00 Visit of Geku Shrine and the City

17:00 Introductory lecture by Zdeňka Němcová Zedníčková & lecture by Gouki Yamamoto

20:00 Welcome Dinner and Party in ICG (Chirashi-zushi or Sushi)

Mon 02. 03.

09:00 Visit of the locations - Ise Kaido & Seta River and interaction with local people

13:00 Strategy creation with A°D°A software + A°D°A Introductory lecture by Zdeňka Němcová Zedníčková and Haruka Kajiura

19:00 Evening lectures Yukiko Iida (Progress of community action and team building from CFT),
Valerie van Leersum (Conversation with the Landscape) - on spot ICG

Tue 03. 03.

09:00 Design time & independent location visits and interaction with
Independent lunch time

13:00 HUMAN consultations time in ICG

13:30 Tea ceremony by groups with Ms. Kiyono

15:00 Design time in ICG

19:00 Evening lectures Ida Chuchlíková (Narrative urbanism), Carlo Andrea Biraghi
(Mapping urban design quality) - online

Wen 04. 03.

09:00 Departure from ICG for excursion

09:36 Train trip to Futami with independent lunch time - return train 14:13

15:00 Design time in ICG

18:00 ICG PRESENTATION of proposals to Local Community
(Selection of proposals to Build Up)

20:00 Gyoza dinner in ICG (Misuzu Gyouza)

Thu 05. 03.

09:00 Urban Furniture Build Up time in ICG

12:00-13:00 Independent lunch time

14:00 HUMAN consultation time

19:00 Evening lecture Jana Bernartová

(AI in artistic practice and why Ada Lovelace is a heroine) - on spot ICG,
Juan Rufino Castillo Molina

(The Identity Crisis of Architecture in the 21st Century) - online

Fri 06. 03.

09:00 Urban Furniture Build Up time in ICG

12:00-13:00 Barbeque lunch in ICG garden

13:00 Urban Furniture Build Up time in ICG

19:00 Evening POP UP strategy meeting

Sat 07. 03.

09:00 preparation for POP UP

10:00 Ise Kaido & Seta River 2x2 Urban Furniture POP UP event

14:00 Work on final presentation

17:00 ICG Final Presentation to Local Municipality & Community

20:00 Good Bye dinner Party in ICG

Sun 08. 03.

11:00 GOKITO Ceremony in Naiku Shrine

16:00 Feedback meeting & Good Bye Drink

17:00 Departure from ICG



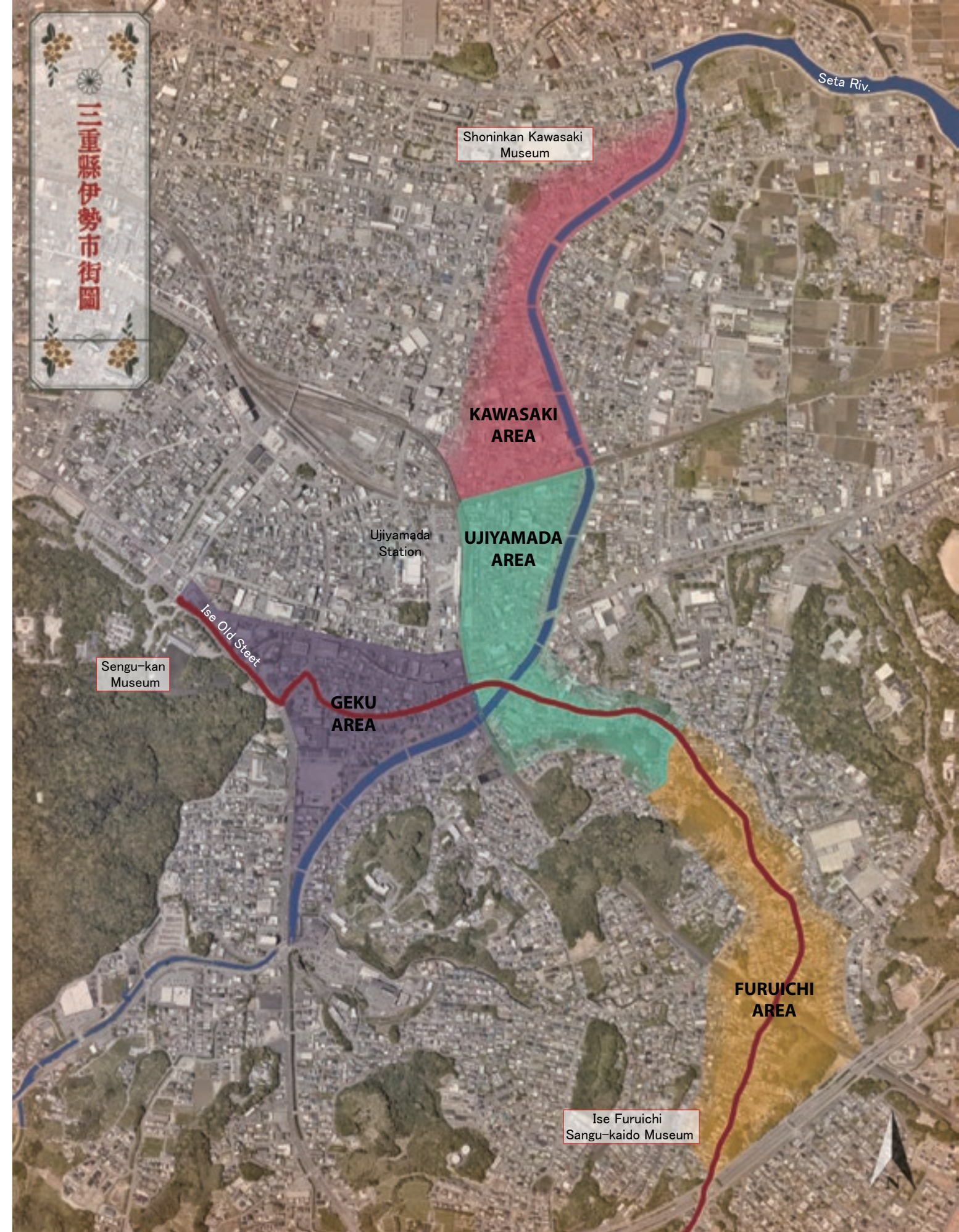
伊勢フェニックスプロジェクト VOL.2

伊勢市の歴史的な巡礼路「伊勢街道」に設置された仮設的なポップアップ家具は、ISE FENIX PROJECT Vol.2 における最も分かりやすい成果のひとつである。しかし、20年ごとに社殿を建て替える式年遷宮が示しているように、「再生」とは一度きりの出来事ではなく、長い時間をかけて丁寧な育まれていく継続的なプロセスである。そのため、第2回ワークショップの本当の目的は、単に家具や空間をつくることではなかった。むしろ、国際的な学生・研究者コミュニティと伊勢の地域住民とのあいだに、ゆっくりと信頼関係を築いていくことに重点が置かれていた。

2026年3月1日から8日に開催されたこの「Networking & Upcycling」ワークショップは、第63回式年遷宮に合わせて2033年まで続く、9年間の地域連携プログラムの第二段階として企画された。このプロジェクトは、神宮の遷宮とともに、伊勢のまち自体も新たな再生を迎えることを目指している。Vol.1では、伊勢街道や勢田川沿いの公共空間について、長期的なビジョンや可能性を共有することが主な目的だった。一方でVol.2では、実際に「行動すること」に重点が移された。恒久的な建築をつくるのではなく、小さな活動を通して可能性を示し、地域住民や土地所有者と直接協力しながら実践していくことが重視された。このプログラムの背景には、日本ならではの「改善(Kaizen)」という考え方がある。それは、不完全な状態から少しずつ良くしていくという伝統的な価値観であり、社会の変化は完璧な技術やデザインだけではなく、人と人との関係性から生まれるという認識に基づいている。

ワークショップには、リベッツ工科大学、プラハ美術アカデミー、名城大学、ユトレヒト芸術大学、サントドミンゴのペドロ・エンリケス・ウレーニャ国立大学、そしてミラノ工科大学から学生と教員が参加し、6日間にわたって共同作業を行った。

このプログラムには、二つの異なる時間軸が存在している。ひとつは、9年間にわたるISE FENIX PROJECT全体の長期的な時間軸であり、地域との継続的で丁寧な関わりを通して、持続的な信頼関係を築いていくプロセスである。もうひとつは、ワークショップそのものの短期的な時間軸である。この1週間の活動は、学生たちが地域を観察し、試し、考え、振り返るための実験的な学びの場として設計されている。そこでは学生は、ただ単に外部から答えを与える「設計者」ではなく、地域と関係を築きながら「学ぶ存在」として位置づけられている。



最初の2日間は、徹底した観察とリサーチに費やされた。学生たちは設計を始める前に、河崎、宇治山田、外宮、古市という4つのワークショップエリアを実際に歩きながら調査した。そこでは、既存の空間利用のパターンを観察するだけでなく、机上の都市分析だけでは見えてこない問いに丁寧に向き合うことができた。

現在、これらの場所を誰がどのように使っているのか。道沿いには自然発生的な交流の場が存在しているのか。高齢者、子ども連れの家族、地域で働く人々、巡礼者は、それぞれ異なる時間帯のなかでどのように街路を使っているのか。また、この地域にはどのような季節的・日常的な生活リズムがあり、人々は自分たちの地域にどのような課題や関心を抱いているのか。学生たちは、「まず設計する」のではなく、「まず観察する」ことから始めるよう導かれた。そして提案する前に耳を傾けること、さらに伊勢街道が持つ精神性を含めた文化的文脈を尊重することが、活動の前提条件として共有された。

フィールドリサーチと並行して、各グループは Virtual Futurologist A° D° A ソフトウェアを用いながら、実践的な戦略づくりにも取り組んだ。このセッションでは、多分野的な対話を通して、その後のワークショップ全体を支える重要なテーマが議論された。たとえば、ワークショップというプロセス自体が、長期的な成功に必要な社会的基盤をどのように築けるのか。なぜ日本的な空間概念や伝統的知識体系を尊重することが、地域への活動において重要なのか。また、家具や日除けとなる構造物が、単なる「座るための装置」ではなく、街の暑熱環境に対応する気候適応型インフラとしてどのように機能し得るのかについても検討された。

さらに、巡礼者、高齢者、家族連れなど、異なる世代や立場の人々が同時に利用できるような、多世代型かつ柔軟で誰もが使いやすいデザインのあり方についても議論が行われた。



ワークショップの流れとまとめ

A° D° A のコンサルテーション・セッションでは、複数の専門分野を持つ AI エージェントによって、多角的な視点からの議論が行われた。たとえば「文化遺産専門家」の AI は、たとえ仮想的な小さなインスタレーションであっても、それは聖なる巡礼路において、人々がどのように互いを支え合いながらコミュニティを築いてきたかという、千年以上続く対話の一部になるのだと学生たちに示した。一方で、「都市計画専門家」の AI は、公共空間に構造物を設置する際に伴う法的・倫理的な課題について指摘した。適切な許可なしに公共空間へ介入することは難しく、その問題に対してワークショップでは、地域の土地所有者との協働によって、すべての物理的介入を許可の得た私有地内で行うという方法を採用した。この「地域の土地所有者とのパートナーシップ」は、Vol.2 の方法論において中心的な役割を担っていた。短期間のうちに広範囲な地域参加を目指すのではなく、各グループは担当エリアの中で一人の土地所有者を見つけ、その人と実際に関係性を築きながら活動を進めることが求められた。重要だったのは、多くの人と表面的につながるのではなく、限られた相手と深い信頼関係を築くことだった。

ワークショップの拠点となった Ise Creators Garage (ICG) は、その信頼関係が生まれるための場を提供して頂いた。学生たちは、地域住民が見知らぬ訪問者を自分の敷地へ受け入れるという大きなリスクを引き受けていることを理解しており、ワークショップ全体の信頼性も、その信頼に対してどれだけ誠実に向き合えるかにかかっていた。最終的に、各グループは複数の土地所有者と対話を重ねたうえで、二種類の場所を選定した。ひとつは、家具を一定期間継続して設置できる私有地であり、所有者の協力と参加のもとで、地域住民との交流の場として機能することが期待された。もうひとつは周辺の公共空間である。そこでは正式な設置許可を得ることが難しかったため、実際に家具を設置する代わりに、「もしここに家具があったら、その場所はどのように変わるのか」を示すイメージバースが制作された。これらは最終プレゼンテーションや今後の議論のための提案資料として活用された。



ワークショップの流れとまとめ

水曜日の夕方、各グループは ICG にて地域住民へ向けた中間発表を行った。これは、学生たちが地域調査をもとに考えた提案を、実際にその場所で暮らす人々の知識や感覚によって意見を頂く機会となった。この段階で得られたフィードバックは、制作作業へ直接反映され、最終的なデザインに大きな影響を与えた。金曜日には、各グループがポップアップ設営に向けた準備へ移行した。構造物の安全性を確認するための耐荷重テスト、天候条件の確認、そして当日の運営計画など、実際の設置に向けた具体的な準備が進められた。

そして3月7日（土）のポップアップ当日は、ワークショップ全体が「Experimental Community Futures Laboratory（実験的コミュニティ未来研究所）」として機能していた。そこでは学生たちが地域住民と直接関わりながら、公共空間における人々の反応や行動を観察する“ライブ・リサーチ”が行われた。交流はあくまで自然な会話を重視し、強制的な参加や形式的なインタビューは行われなかった。現地で得られた意見や反応は、写真や文章として収集され、その日の夜に行われた最終プレゼンテーションで地域住民へ共有された。3月8日（日）、内宮での御祈祷のあとに行われた最終まとめの時間では、学生たちはこの1週間を振り返りながら、自分たちの先入観と現実との違いについて共有した。地域や人々について何に驚いたのか、ストリートファニチャーをきっかけにどのような会話が自然に生まれたのか、そして、もしさらに時間があればどのような問いを深めたかったのかについて議論が行われた。

このワークショップを通して、「本当の意味での地域参加」は、たった6日間で達成できるものではないという事はみな理解していた。そして、その限界とどのように向き合うのかも学生含め企画者も考えなければならなかった。最も重要な目標は、地域に対して迷惑を与えず、住民にとって前向きな体験を生み出すことである。その結果、Vol.2 ワークショップは当初の期待を超える成果を残した。学生と地域住民とのあいだに生まれた誠実で前向きな交流は、Vol.3 へ向けた確かな土台となった。また、ポップアップイベントを通して、地域住民が事前の対話の中で学生たちに語っていたことが、実際の空間の中で実現した。

今回のワークショップ中に「一期一会」という考え方を我々は知った。それは、「この出会いは二度と繰り返されないかもしれないから、一度きりの出会いや瞬間を大切にする」という意味を持ち、人々がその場限りの交流でさえ大切にする非常に美しい価値観だと思った。

ISE FENIX PROJECT Vol.2 は、伊勢という土地特有の時間感覚や“無常”の思想、そして永続性ではなく“繰り返し更新されること”に価値を見出す伝統を基にしている。その意味で、このプロジェクトは単なる建築ワークショップではなく、長期的で地域主導型、そして相互的な文化交流を実現するための方法論を学ぶ場でもあった。そこでは、物理的な介入そのものが目的なのではなく、人と人との関係性を丁寧に構築することが必要不可欠であろう。

(Zdeňka Němcová Zedníčková)



ワークショップの流れとまとめ

ON SPOT LECTURES

Gouki Yamamoto - Introductory lecture

Zdeňka Němcová Zedníčková & Haruka Kajiura - A°D°A software + A°D°A Introductory lecture

Yukiko Iida - Progress of community action and team building from CFT

Valerie van Leersum - Conversation with the Landscape

Jana Bernartová - AI in artistic practice and why Ada Lovelace is a heroine

ONLINE LECTURES

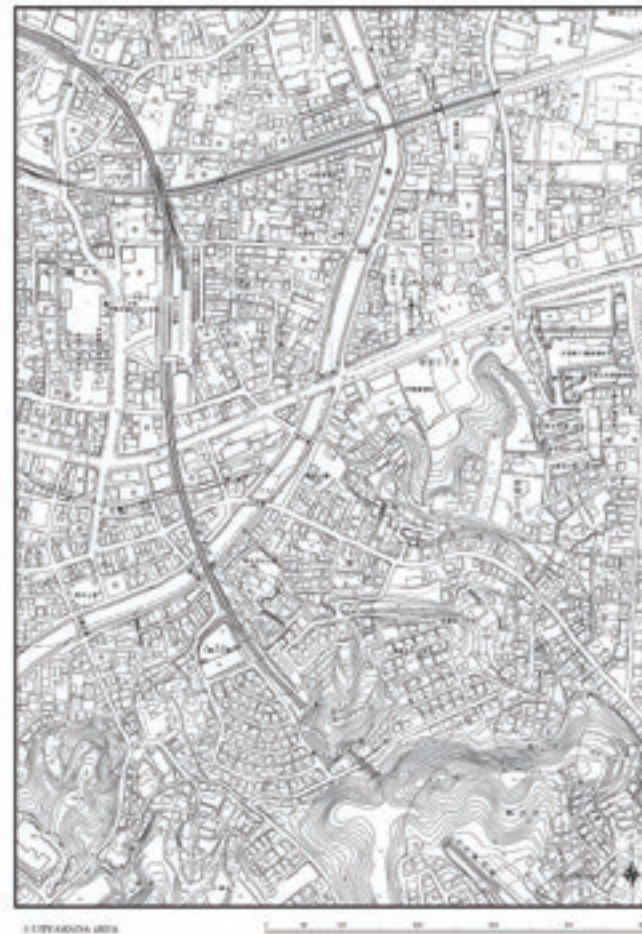
Ida Chuchlíková - Narrative urbanism

Carlo Andrea Biraghi - Mapping urban design quality

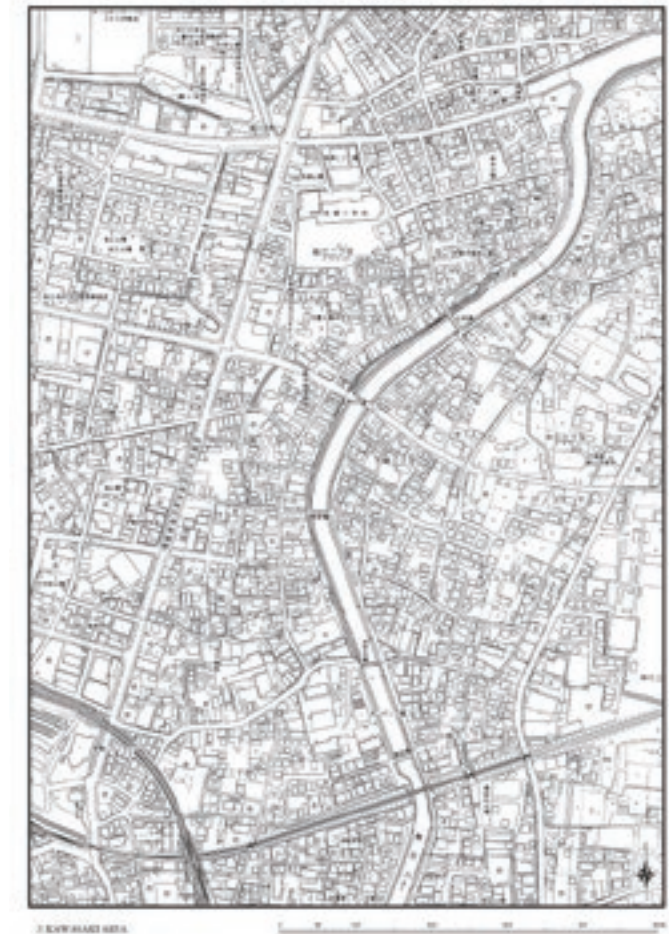
Juan Rufino Castillo Molina - The Identity Crisis of Architecture in the 21st Century



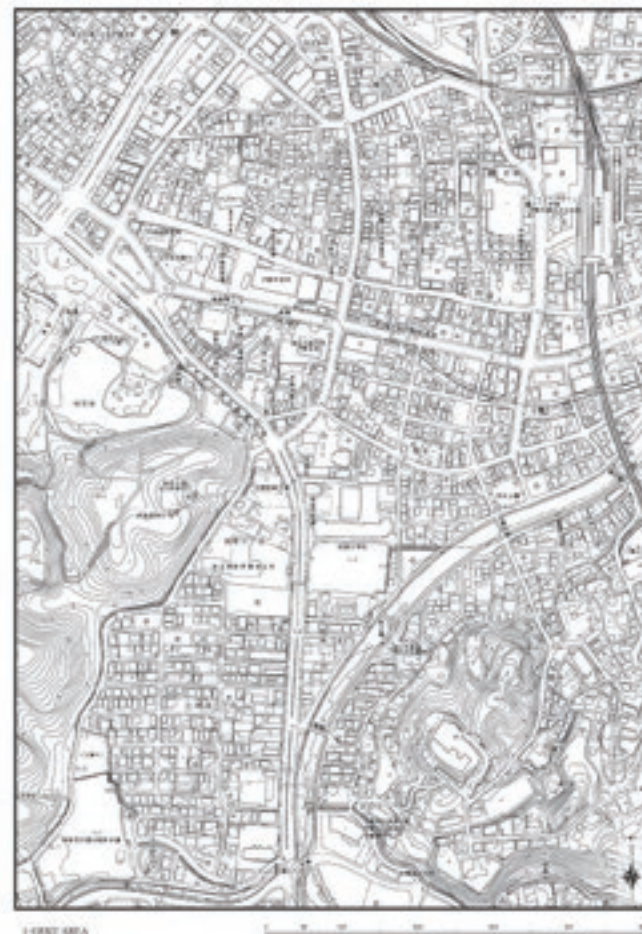
Ujiyamada Area



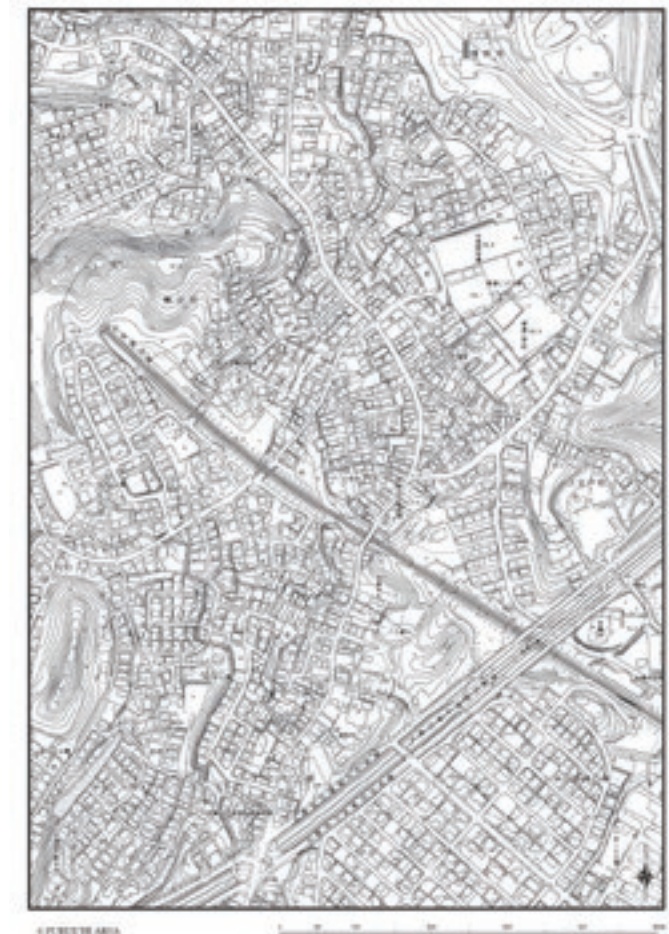
Kawasaki Area



Geku Area



Furuichi Area





Mr.Takeuchi

Profile

Man in his 70s

Situation

We talked to him while he was sitting on a bench along the Segawa River. He taught us his routines and the history of Kawasaki.

Routine

He walks along the river and sits listening to the radio and searching flower name that he see on the road.

Needs

More public restrooms and additional benches along the river.

Favorite

Enjoys the river scenery, plants, flowers, and birds. He takes photos and looks up information about them. His favorite spot is the parking lot for its relaxing view.



Ms.Tsuji : Yoga instructor

Profile

Local yoga instructor.

Situation

We interviewed them in front of her yoga studio.

Routine

They walk their dogs there because it feels safer than the street in front of their house, where passing cars can be intimidating

She has a yoga class at home

Favorite

The pedestrian-only path along the Setagawa River

THE FIRST CLIENT



Ms.Kawamata : restaurant owner

Profile

Local restaurant

Situation

We spoke with them at their restaurant.

Routine

It's a popular restaurant, so customers often line up. Customers are often waiting in the car at that time.

They also kindly displayed our poster.



Cuelli : shop



This will be third client ?



E-mail

(Dear madam,

We met in front of your Yoga studio yesterday for our Ise Fenix project. Thank you for the conversation and your time. We are very excited to think with the locals to connect and make a intervention. For the urban furniture intervention, it can be several things like benches, tables, chairs, plants, books and more. Maybe we could use a Yoga pose to design a urban exercise furniture.)

Hi everyone!

Thanks for the message.

Ise Fenix project sounds very exciting and I'm willing to cooperate.

I love the idea of yoga pose furniture. Hope to see you soon.



Our proposal

A chair inspired by a yoga pose

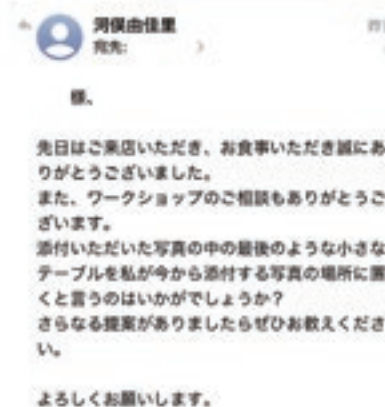
Routine

She has a yoga class at home

Feedback & Permission

They allowed us to test our ideas as long as they do not obstruct cars.

Future image



E-mail

Dear madam,

We visited your restaurant yesterday for our Ise Fenix project. Thank you for the delicious meal, for making a photo with us and hanging our project poster. We are very excited to think with the locals to connect and make a intervention. For the urban furniture intervention, it can be several things like benches, tables, chairs, plants, books and more.

Thank you very much for visiting and dining with us the other day. Thank you also for reaching out about the workshop.

How would you feel about placing a small table, like the one in the last photo you attached, in the area shown in the picture I am attaching now?

If you have any further suggestions or ideas, please let us know.



Needs

Small table

Routine

Customers are often waiting in the car at that time.

Feedback & Permission

They allowed us to test our ideas as long as they do not obstruct cars.

Reference



Future image





ヒアリング調査

雨の日 / 地域の方との対話

「場所自体はすでに決まっていて、地元の人たちの多くは普段車で移動しているので、現状では特に大きな問題はありません。ただ、もし新しく何かを加えるのであれば、高齢者の方々が使いやすいものがあると良いと思います。

この地域はバスの本数も少ないので、歩いて移動する人のために、椅子やちょっと休める場所があるととても良いと思います。さらに『ご自由にお座りください』のようなサインがあれば、観光客でも地元の人でも、気兼ねなく利用できるようになると思います。

一方で、日本人は椅子があっても遠慮して座らないことが多いので、『自由に使っていい場所なんだ』ということを、きちんと伝える工夫も必要だと思います。

この辺りにはベンチや座れる場所自体が少ないので、簡単な椅子があるだけでもありがたいと感じます。また、この地域で自然な交流の機会を生み出すのは意外と難しいことでもあります。観光地では人との出会いや会話が自然に生まれやすいですが、この地域は観光客よりも、実際に伊勢で暮らしている地元住民の方がほとんどだからです。」





街中での地域住民へのヒアリング

- ・ Person 1*: 伊勢街道沿いに住んでいる
- ・ Person 2*: 伊勢神宮周辺に住んでいる
- ・ Person 3*: 伊勢街道から離れた住宅地に住んでいる
- ・ Person 4*: 伊勢街道の衰退は、自動車社会の普及によって起きたと考えている

主な発見・考察

1. 伊勢神宮は、多くの地域住民にとって「日常の一部」というよりも、“特別すぎる存在”として認識されている。
2. 歴史的な巡礼路である伊勢街道は、現在の日常的な人々の移動動線から切り離されつつある。
3. 地域の移動は、自動車中心のライフスタイルによって成り立っている。
4. 歩くという行為は、移動のためというより、健康維持や散歩を目的とする場合が多い。
5. 同じ地域住民の中にも、複数の異なるコミュニティや地域との関わり方が存在している。



Hankei

地域住民による日常利用について

- ・歩道が非常に狭い
- ・夜間は街灯が少なく、暗い

地域住民と伊勢街道との関係性

- ・伊勢街道沿いに暮らしているため、彼らにとってはもはや特別な存在ではなくなっている
- ・自宅から外宮までは歩いて行くことがあるが、街道全体を歩くことはほとんどない
- ・毎年 12 月 31 日や 1 月 1 日には神宮へ参拝に行く
- ・以前の世代の方が、現在よりも伊勢街道との結びつきが強かった
- ・特に昔は、伊勢神宮へ向かう唯一の道として、伊勢街道が重要な役割を果たしていた

巡礼として街道を歩く人々について

- ・日曜日には、伊勢市外から来た人々が実際に伊勢街道を歩いていることがある
- ・その多くは高齢世代であり、若い世代の関心は薄れつつある
- ・昔は、天照大御神を祀る内宮へ向かう唯一の道であったため、現在よりはるかに多くの人々が伊勢街道を利用していた
(実際に街道を歩いている巡礼者には出会えなかったため、彼ら自身の体験については十分な情報を得ることができなかった。)

AI を用いた対話型分析

Artist

「私が最も重要だと考えるのは、これらのオブジェクトが“機能的な家具”であるだけでなく、“文化的インターフェース”としてどのように機能し得るのか、その境界を問い直すことです。これらは単なる設備ではなく、人々の交流を生み出す触媒となり得るのでしょうか？」

Materials Science & Circular Economy Specialist

「最も重要なのは、日本の厳しい気候サイクルに耐えられる素材耐久性です。学生たちは、地域で実際に利用可能な素材や、維持管理能力について、どのような根拠やリサーチを持っているのでしょうか？」

Participatory Planning Facilitator

「参加型まちづくりのファシリテーターとして最も重要だと感じるのは、このプロジェクトが伊勢の地域住民による主体的なリーダーシップなしには成立しないということです。そのためには、最初の段階から地域住民をプロセスへ巻き込む必要があります。」

A°D°A insights Geku



・単なる家具ではなく、地域文化を取り込んだ存在であること。



・耐久性のあるデザインであるだけでなく、維持管理しやすく、安全であることも重要である。



・私たちは、まず設計する前に、ともに協働しなければならない。

FIRST SUMMARY & REFLECTION:

Our experts have provided remarkably rich and complementary perspectives on your Ise Kaido project. Several key themes emerge:

CONVERGENT INSIGHTS:

- **Community-first approach:** All experts emphasize prioritizing local residents' needs over tourist convenience
- **Cultural authenticity:** Multiple experts stress respecting sacred traditions and existing community practices
- **Holistic research methodology:** Everyone advocates for deeper, more participatory research approaches
- **Sustainability focus:** Both economic and environmental long-term thinking is essential

DIVERSE PROFESSIONAL LENSES:

- **Risk Management:** Focus on safety vulnerabilities and community resilience building
- **Architectural Theory:** Emphasis on phenomenological experience and cultural storytelling integration
- **Traditional Craftsmanship:** Attention to material harmony, spiritual rhythm, and traditional construction wisdom
- **Economic Development:** Revenue sustainability and stakeholder economic impact analysis
- **Social Justice:** Power dynamics, spatial exclusion, and community agency concerns
- **Cultural Heritage:** Story archaeology and environmental-spiritual relationship mapping

A° D° A との分析結果

- ー 観光客ではなく、まず地域住民に焦点を当てること。
- ー 新しい物語をつくるのではなく、すでに地域に存在している歴史や記憶に目を向けること。そして地域住民自身が、自らの伝統と再び出会えるようにすること。
- ー 人々が実際に伊勢街道を利用している瞬間を観察すること。たとえば、日常的な生活習慣、季節の祭り、地域の集まりなど、人々の自然な移動や行動のリズムに注目すること。
- ー 機能性を持たせながらも、それ以上に、伊勢街道が持つ精神性や伝統的意味を重視すること。そして、その土地に存在する自然な時間の流れやリズムに寄り添うこと。

A°D°A insights Furuichi

伊勢街道を歩く人々には、大きく分けて二つの異なるグループが存在しており、それぞれに異なるニーズがある。

- ・ 1. 日常的に伊勢街道を利用している地域住民
- ・ 2. 巡礼路として伊勢街道を歩く少数の来訪者

私たちは、日常的にこの道を利用する地域住民の実際の・機能的なニーズに応えながら、同時に伊勢街道が持つ伝統的な意味や歴史性を感じられるようなデザインを考える必要がある。

新しい物語を無理に作り出すのではなく、すでにこの場所に存在している歴史や記憶、地域固有のストーリーに焦点を当てることが重要である。そして、それによって地域住民自身が、自分たちの町にある特別な歴史とのつながりを再認識できるようにする。

私たちは、人と人とのつながり、そして人々と伊勢街道の豊かな文化的歴史とのつながりを生み出すものを、どのようにデザインできるだろうか。

A°D°A insights Ujiyamada

地域住民とのコミュニケーション

宇治山田エリアでの街頭ヒアリング

街頭インタビューから得られた主な発見

1. 伊勢街道を実際に歩いている人はそれほど多くない。
2. 道路は自動車交通量が非常に多く、歩行環境としてはあまり快適ではない。

- ・ 多くの人は、この道が伊勢街道であること自体を認識していなかった。
- ・ 伊勢街道の衰退は、自動車社会の普及によって引き起こされたと考えている人もいた。
- ・ 地域住民の多くは高齢者であり、健康維持を目的として朝や夕方に散歩をする人がいる。
- ・ 公共交通機関はあまり便利ではなく、高齢者が多い地域であるため、移動の大部分は自動車に依存している。

Behavioral Psychologist Consultant

- **Initial View:** Argued that direct resident participation in the physical renewal and craftsmanship of the space deepens place attachment and enhances psychological restoration.
- **Revised View:** Shifted away from demanding complex maintenance to advocating for "accessible engagement" that fits naturally into daily routines. Concluded that seasonal festivals or simple tasks done during regular walks provide sufficient psychological benefits and community connection.

City Risk Management Specialist

- **Initial View:** Suggested that the Shikinen Sengu philosophy aligns beautifully with modern resilience, and that having residents maintain safety infrastructure themselves improves disaster response capacity.
- **Revised View:** Acknowledged that infrastructure reliability and multi-hazard preparedness cannot rely on volunteer maintenance. Argued that professionals must manage critical infrastructure, while residents should focus on observation networks (e.g., hazard reporting apps) and awareness-building events.

Urban Designer Specialist & Sustainable Public Space Consultant

- **Initial View:** Proposed moving away from the Western "build once and maintain forever" paradigm to modular infrastructure (like traditional wooden restrooms) that residents can periodically disassemble and renew.
- **Revised View:** Pivoted to an approach where professionally maintained infrastructure serves as the foundation, with Shikinen Sengu principles reflected in design details, materials, and seasonal elements. Emphasized that it is crucial to offer flexible opportunities where residents can engage without feeling it is an additional obligation or burden.

Urban Environmental Engineer

- **Initial View:** Proposed dynamic systems like constructed wetlands and composting toilets where residents manage and restore the ecosystem, rather than just using static public facilities.
- **Revised View:** Admitted that water quality and public health require professional monitoring, and that mismanagement poses severe health risks. Revised their approach so professionals manage ecological infrastructure, limiting the residents' role to observation, citizen science via photo documentation, and seasonal nature education.

Public Safety Urban Design Consultant

- **Initial View:** Advocated for "gentle surveillance" where residents regularly maintain traditional lanterns and pathways, arguing this community activity is more effective for crime prevention than permanent surveillance cameras.
- **Revised View:** Changed their stance to assert that public safety must not depend on fluctuating resident participation levels. Proposed that professionals maintain lighting and pathways, asking residents only for low-burden cooperation like "safety walks" during regular playground visits or school pickups.

Mother with Young Children Community Advocate Representative (Yuki) [The Turning Point]

- **Pushback Against Experts:** Strongly pointed out that busy parents only have "5-minute bursts between other responsibilities" to participate, challenging the experts' idealized visions of community stewardship. Warned that large-scale community maintenance plans would ultimately burden the same few overwhelmed volunteers.
- **Final Request:** Insisted that infrastructure should "enhance" and support daily parenting routines rather than compete with them. Concluded that a flexible hybrid system where anyone can contribute without guilt or hierarchy—regardless of their family situation—would allow the Shikinen Sengu philosophy to have a powerful, positive impact on modern families.

Ultimately, the experts agreed on a unified approach: professionals will reliably ensure the safety, hygiene, and function of the infrastructure, while community participation—serving as a cultural and psychological added value—will be designed to fit effortlessly into the residents' daily lives.

Would you like me to focus on any specific part of this discussion or explain the AI validator's final thoughts on the meeting?

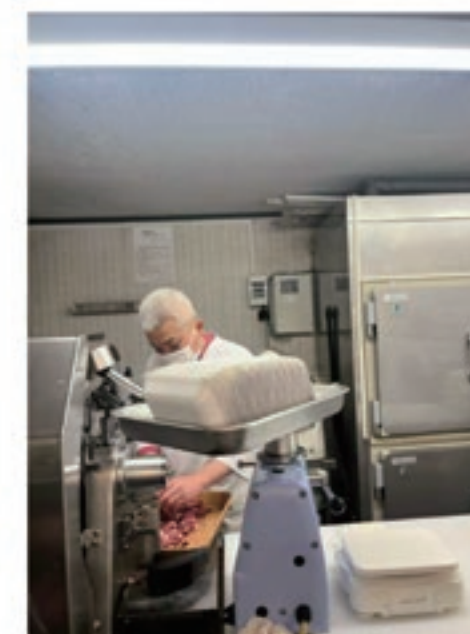
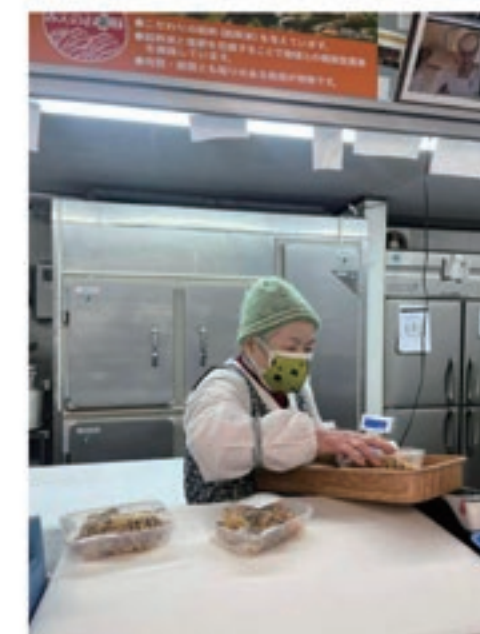
A°D°A insights Kawasaki

・一部の専門家は、地域住民による参加や主体性が重要であると指摘していた。

・しかし、ある母親は「子育てで忙しく、地域活動に参加する時間がない」と話していた。

・この意見を受けて、他の専門家たちは、「特別な参加」を求めるのではなく、人々の日常生活の中で自然に関われる仕組みを考える方が、より現実的であるという結論に至った。

そのため私たちは、人々の日常的な行動や生活リズムに焦点を当て、それを観察・調査していくことにした。



地域の方々との関わり

A°D°A
CREATIVE SOFTWARE
VIRTUAL FUTUROLOGIST



地域の方々との関わり

Story from local people

幼い頃から年を重ねるにつれて、私はすべてに感謝しなければならないと思うようになりました。

例えば、ご飯が食べられることへの感謝や、友人が笑顔でいてくれることへの感謝です。

この感謝の気持ちは日本の文化や考え方、つまり…この伊勢の土地に由来するアイデアなのだと思います。それは伊勢神宮から始まっていると私は信じています。

多くの人々はよく伊勢神宮を訪れて願い事をします。その願いは今年一年、病気をせずに過ごせますようにというものです。今年一年、何事もなく、病気にもならず過ごせたこと。

伊勢神宮を参拝する最善の方法は、感謝の気持ちを示すことです。日本人は宗教に関係なく、独自に神を崇拝しています。その伝統は今も深く根付いており、人々は今でも伊勢神宮を訪れます。

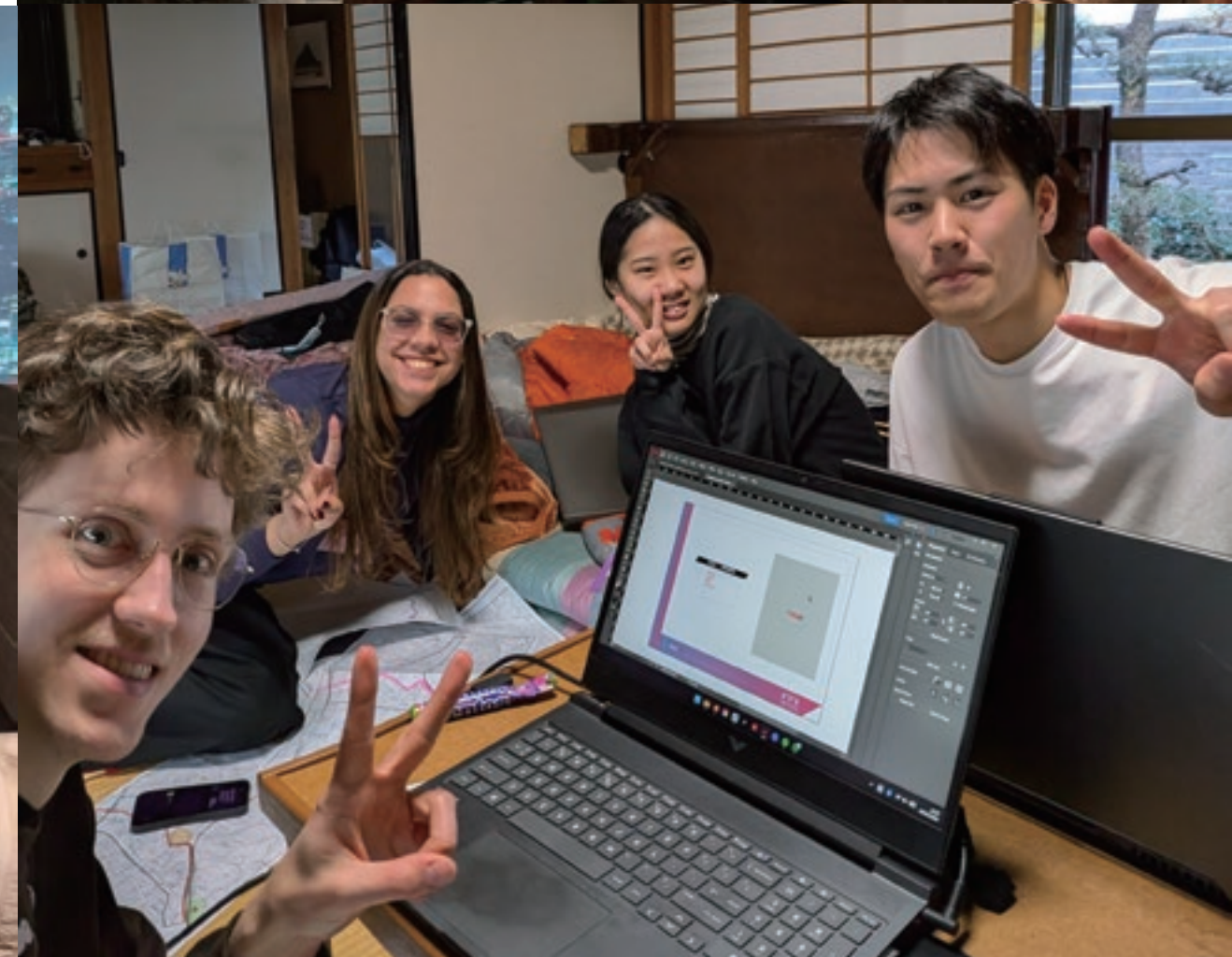
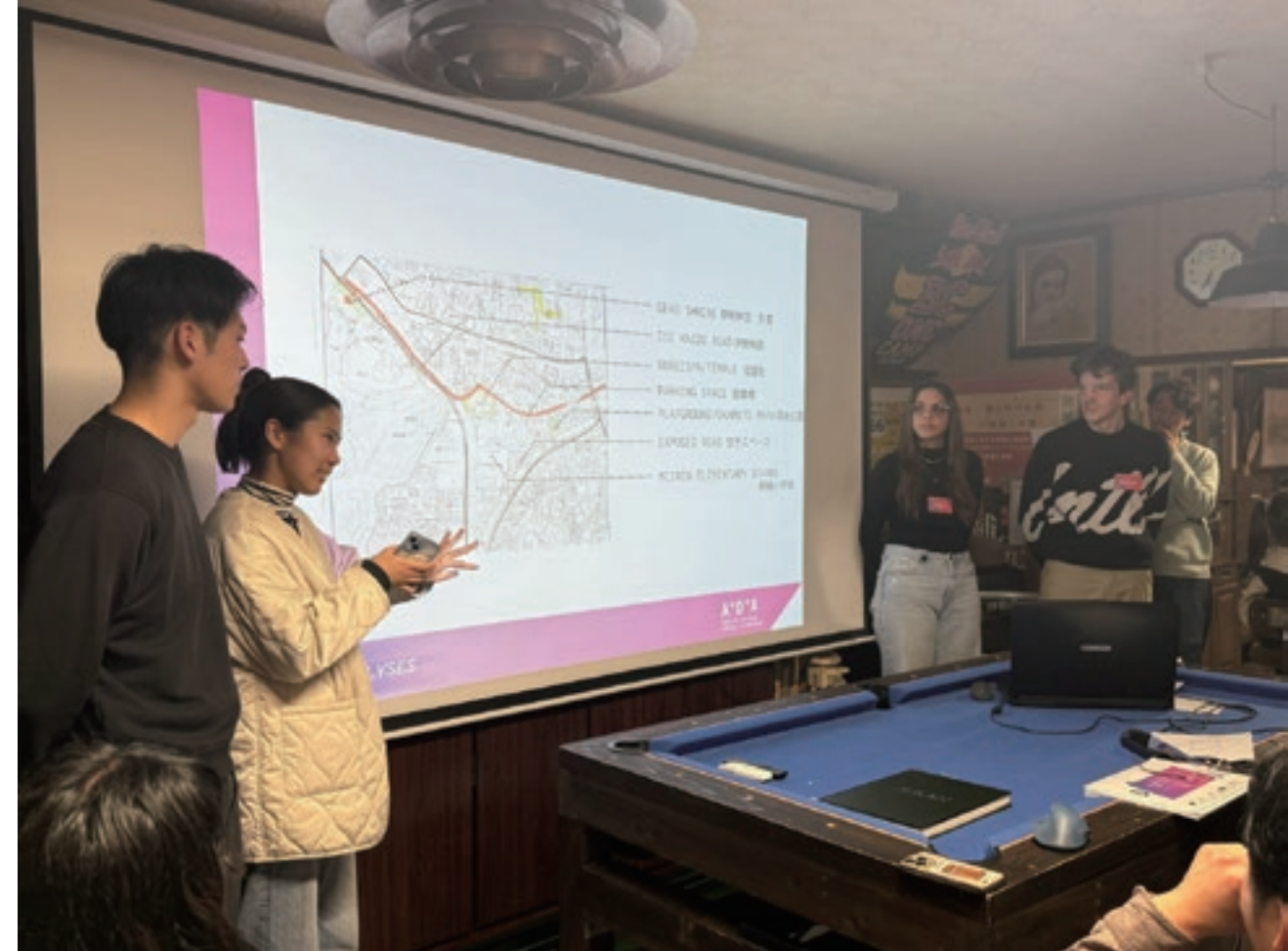
そこには神への信仰心のようなものがあるのだと思います。

(ばらやん店主)



Team GEKU MEMBERS

Quinten Rijken
Riko Shimizu
Haruto Suzuki
Angela Frias



地域の方の声

地元の人たちの多くは車で移動しているので、現状では特に困っていることはありません。

ただ、もし何か新しく加えるのであれば、高齢者の方々が使いやすいものがあると良いと思います。

この地域はバスの本数も少ないので、歩いている人が休める椅子のようなものがあると、とても良いと思います。そして、『ご自由にお座りください』のようなサインがあれば、観光客でも地元の人でも、誰でも気軽に座れるようになると思います。

一方で、日本人は椅子があっても遠慮して座らないことが多いので、『自由に座って大丈夫ですよ』ということを伝える工夫も必要だと思います。

この辺りには椅子やベンチ自体があまりないので、椅子が置かれているだけでもありがたいと感じます。ただ、この地域では人との交流の機会を生み出すこと自体が難しいとも感じています。

例えば観光地では自然と交流が生まれやすいですが、このエリアは観光客向けというより、実際に伊勢で暮らしている地元住民がほとんどの地域だからです。」







外宮エリア

A°D°A
CREATIVE SOFTWARE
VIRTUAL FUTUROLOGIST



外宮エリア

A°D°A
CREATIVE SOFTWARE
VIRTUAL FUTUROLOGIST



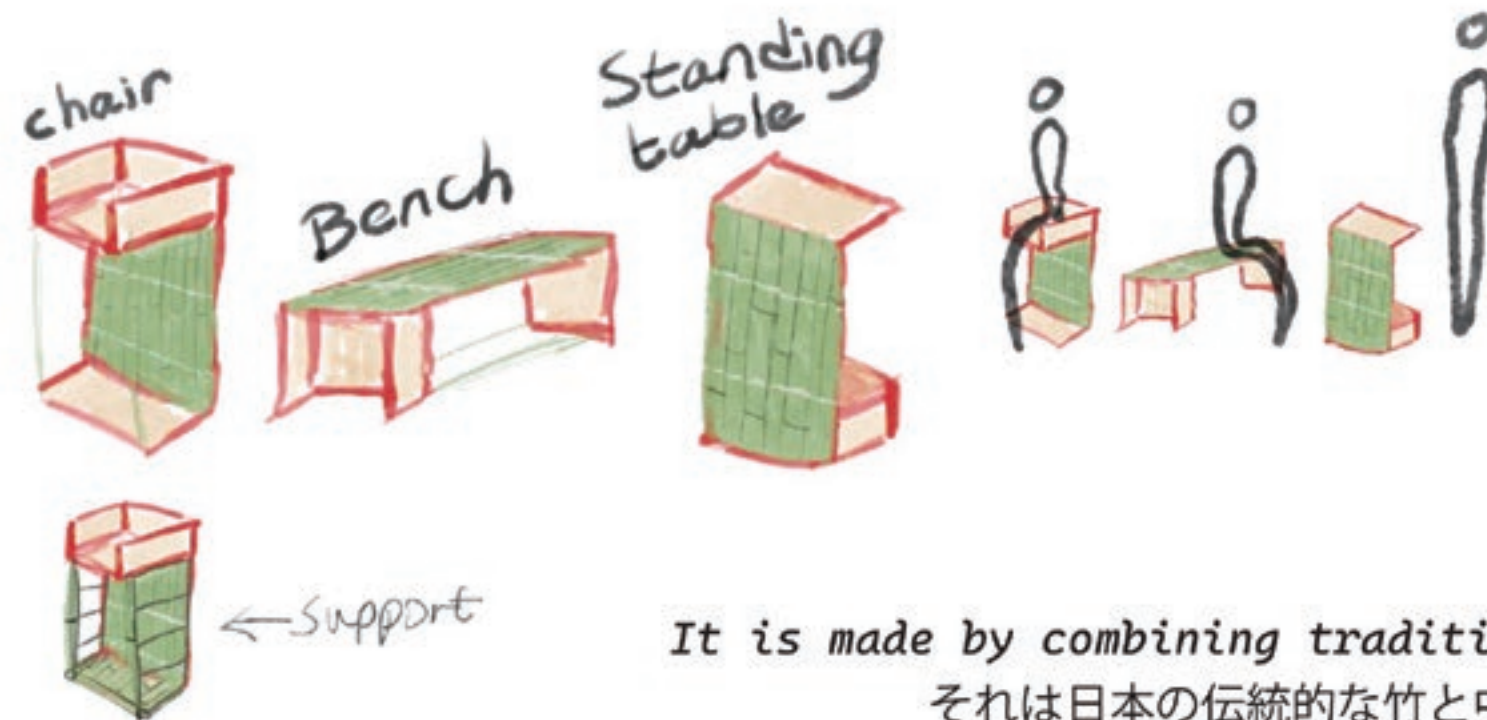
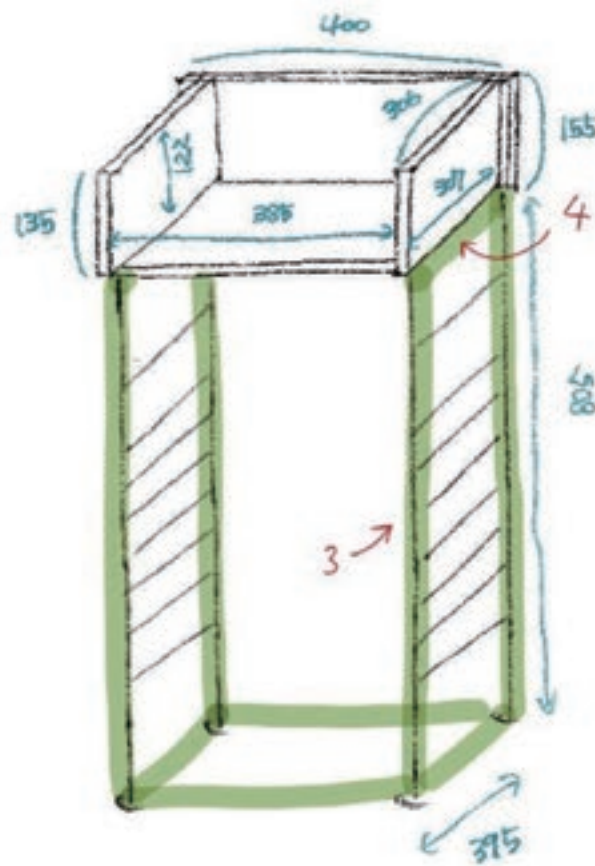
外宮エリア

A°D°A
CREATIVE SOFTWARE
VIRTUAL FUTUROLOGIST

Team Kawasaki MEMBERS

Ondřej Burda
Naoko Matsumoto
Takahito Nishiwaki
Thaya Callisaya Hilara





It is made by combining traditional Japanese bamboo and unused parts.
それは日本の伝統的な竹と中古の部品を組み合わせで作られる。

It can be a chair or a desk.
それは椅子や机にもなる。



before



after



restaurant



before



after





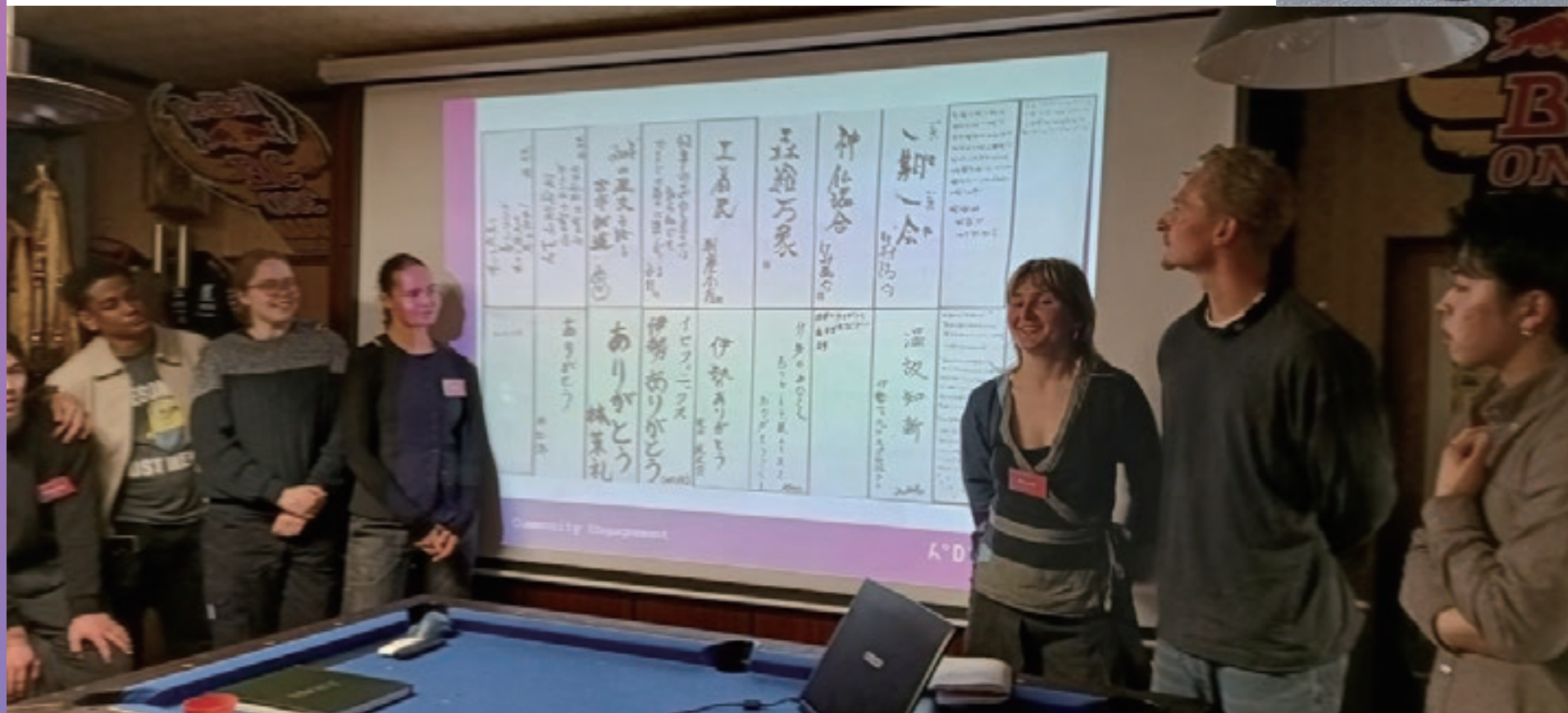
yoga class



Team Furuichi & Ujiyamada MEMBERS

Julie Procházková
Simon Wijtenhorst
Kosei Futamura
Juna van Dijk

Jordy Garcia
Norah van Lith
Kaito Taguchi



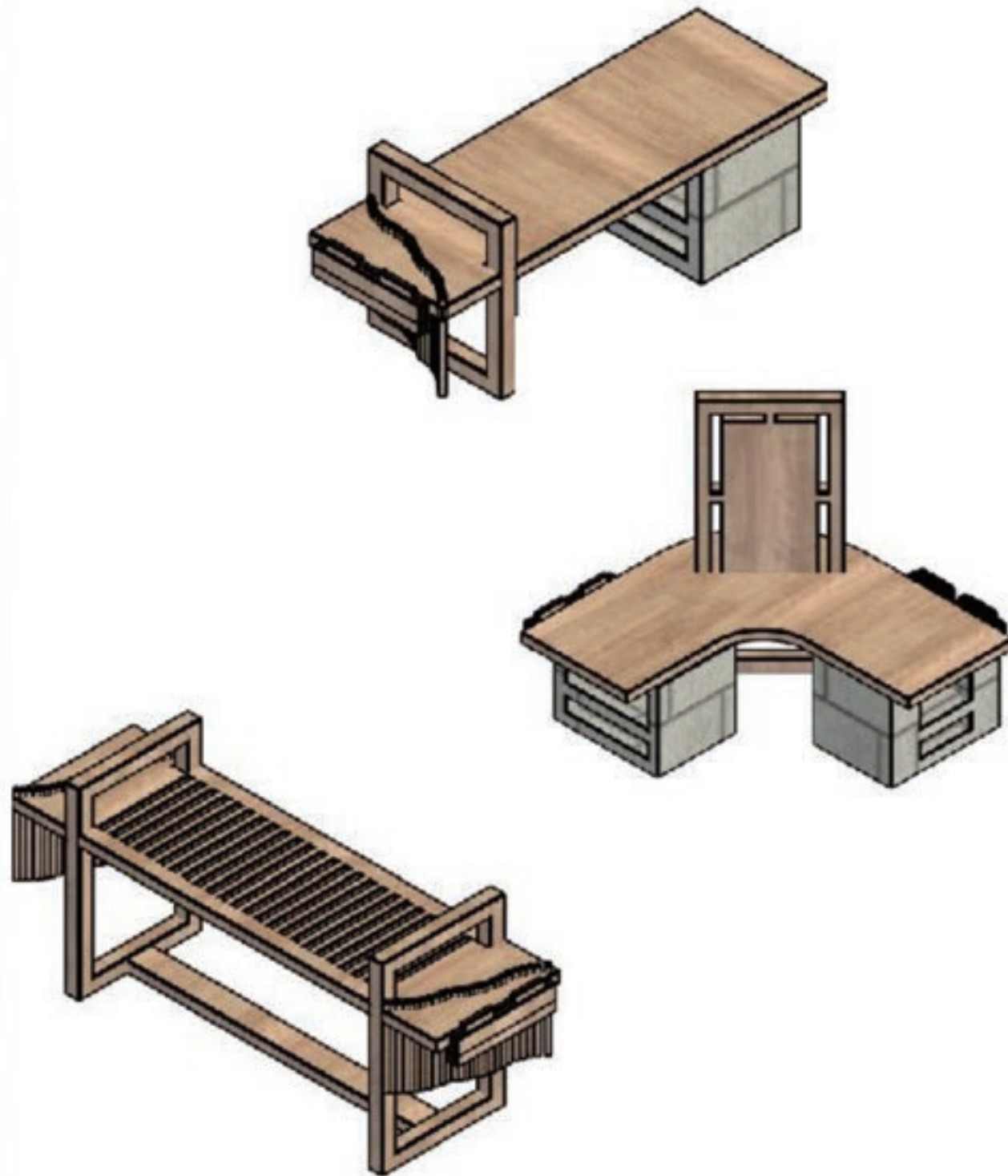
古市 & 宇治山田エリア



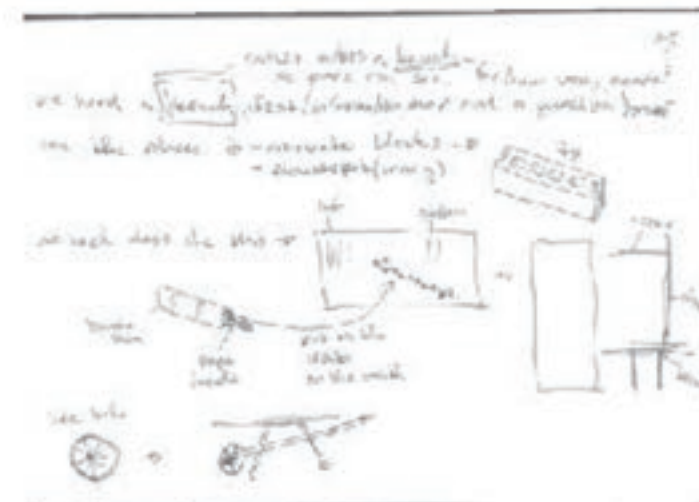
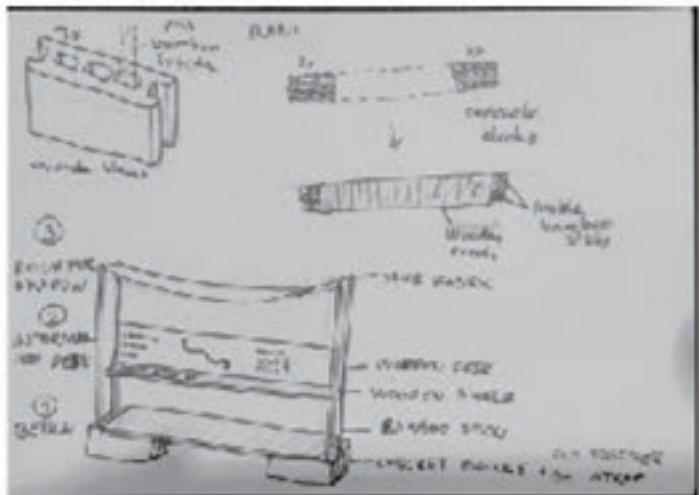
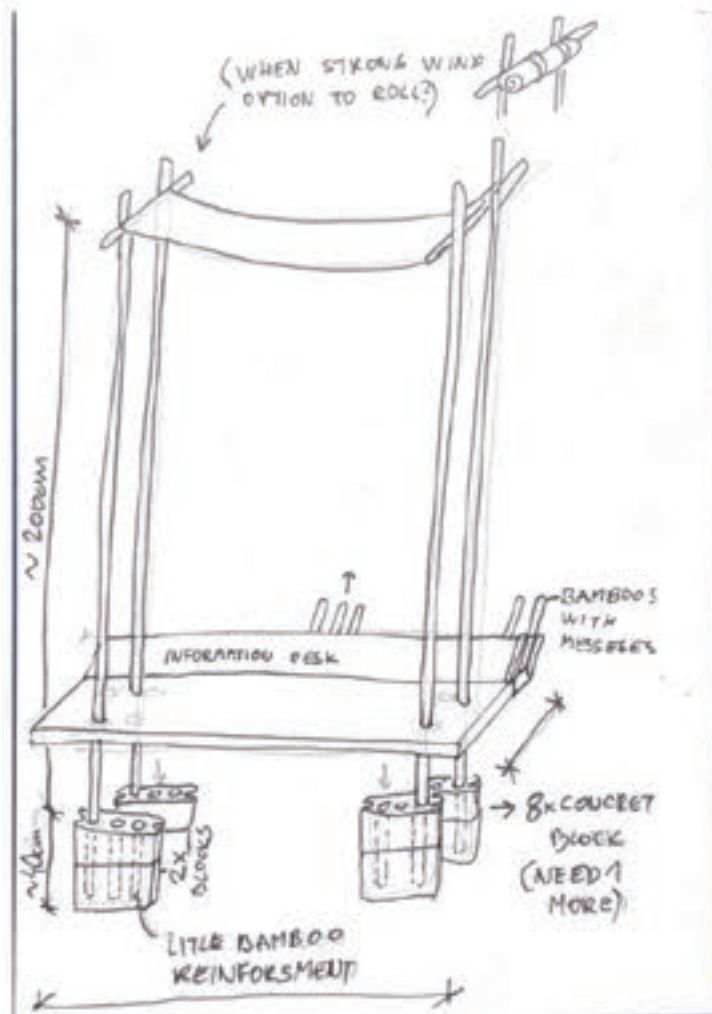
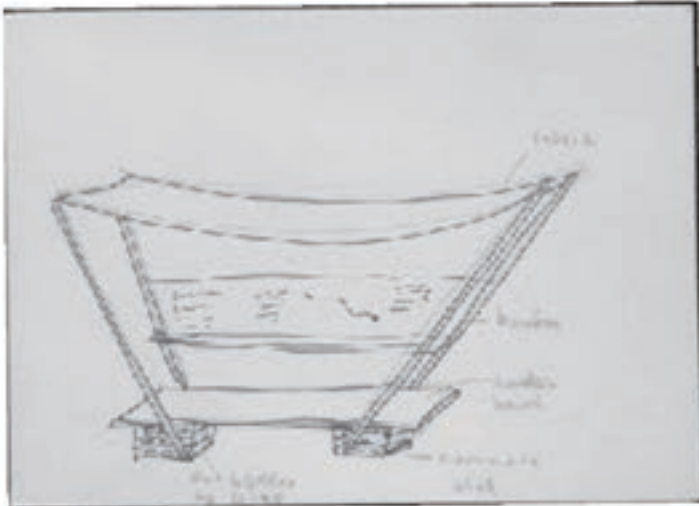
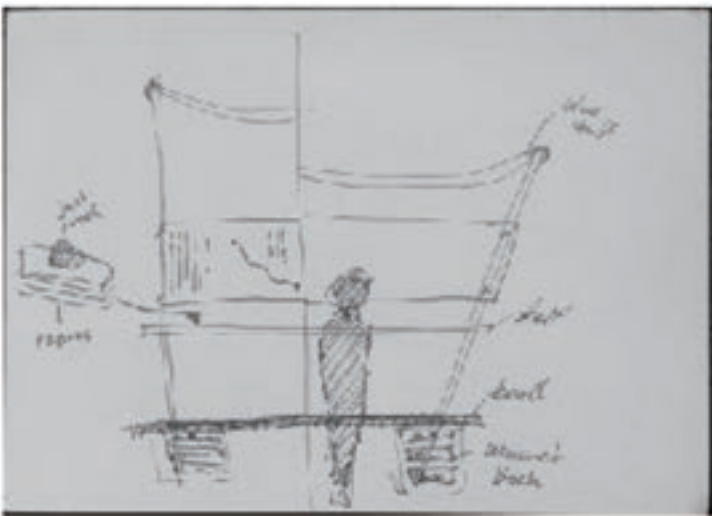
3,4) UJIYAMADA AND FURUICHI AREAS

古市 & 宇治山田エリア

Design concept Furuigi



Design concept Ujiyamada





古市 & 宇治山田エリア

A°D°A
CREATIVE SOFTWARE
VIRTUAL FUTUROLOGIST



古市 & 宇治山田エリア

物語を紡ぐ

”あなたが今、感謝していることは何ですか？”

<ご案内>

あなたは今、伊勢街道の一部を歩いてこられました。この道は外宮と内宮を結ぶルートであり、古くから多くの参拝者が、日本の心のふるさとを目指して歩んだ歴史ある道です。伊勢街道を歩くということ、それは「感謝の気持ち」を心に刻むことでもあります。

このベンチでは、かつて同じ道を歩んだ人々の物語に触れることができます。あなたもこの問いに答えることで、ご自身の物語をここに残してみませんか。そして、次にここを訪れる誰かのために、新たな問いを投げかけてみてください。

あなたの物語や経験、歴史、思い出、そして感謝の思いを分かち合うことが、他の誰かの力となり、この大切な伝統を未来へと紡いでいくことにつながります。

<コンセプト>

時代を超えて物語や問いかけを共有し、この道を共に歩むこと。それは、時を越えたつながりを感じることであり、次の世代へと伝統を継承していくことです。この「伝統の継承」と「感謝の体現」こそが、式年遷宮における最も大切な本質です。



location 1

before



after





古市 & 宇治山田エリア

A°D°A
CREATIVE SOFTWARE
VIRTUAL FUTUROLOGIST

transportation



location 2

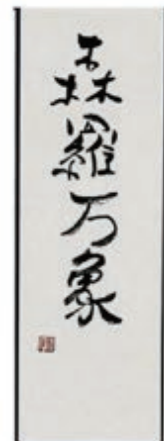
before



after

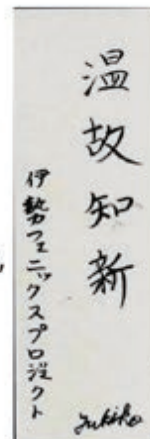


These are yojijukugo, four-character idioms in Japanese. They are fixed expressions made by combining four Chinese characters. Many of them have historical backgrounds, such as stories or moral lessons, and they express deep meanings or vivid images in just four characters.



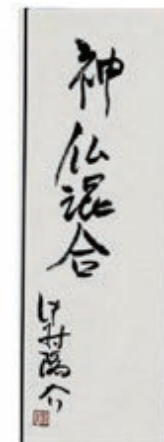
"Shinra Banshō"

We Japanese believe that sacred spirits dwell in many things —natural phenomena such as the sun, wind, mountains, and rivers, as well as everyday things like tools, household spaces, and even great people. For this reason, we believe that although we cannot see them, gods or spirits are present around us. Because of this belief, we express gratitude for everything in our daily lives.



"Onko Chishin"

Learning from the past to discover new knowledge and values.



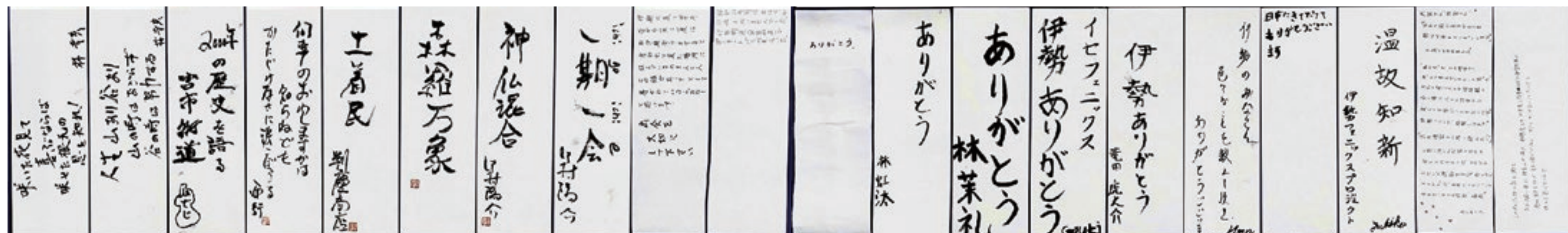
"Shinbutsu Kongō"

This is a religious view that developed in Japan. It does not place the kami of Shinto and the Buddha of Buddhism in opposition, but sees them as existing together and being worshipped within the same world.



"Ichigo Ichie"

This meeting may happen only once in a lifetime, so it should be cherished.





古市 & 宇治山田エリア

A°D°A
CREATIVE SOFTWARE
VIRTUAL FUTUROLOGIST

このワークショップを支え、ご協力いただいたすべての皆さまの
ご協力とご尽力に心から感謝申し上げます。

Mid-term Presentation

Misato Ukita / 浮田美里

DIY

Shohei Nishishita / 西下昌兵

Tea Ceremony

Kiyono Watanabe / 渡辺清乃

Yoshio Hidaka / 日高 義雄

Final Presentation

Chisa Miyahara / 宮原知沙

Kazuki Ichikawa / 市川 和樹

Yosuke Nakamura / 中村陽介

Tomiyasu Seko / 世古富保

Tatsuaki Goshima / 五嶋 達暁

Mizuki Mori / 森瑞貴

Presentation in Local area

Barayan / ろばた焼 ばらやん

Yorozuya Hankei-syoten / よろずや判慶商店

Banfu / ばんふ

Saidenkan-Chiyoda(Panasonic) / 彩電館チヨダ

Kiso cycle center / 有限会社キソーサイクルセンター

Studio Tantandoru Ryoko Yoga / スタジオタンタンドル Ryoko Yoga

Saisyoku Kishin / 菜食喜心

Yukihiko Hayashi / 林幸彦

Tetsuya Kakimoto / 柿本徹也

Barber Okada / 岡田理容店

Cafe KANON / 茶房 KANON

Manpuku-Shokudo / まんぷく食堂

Momoya / もも屋

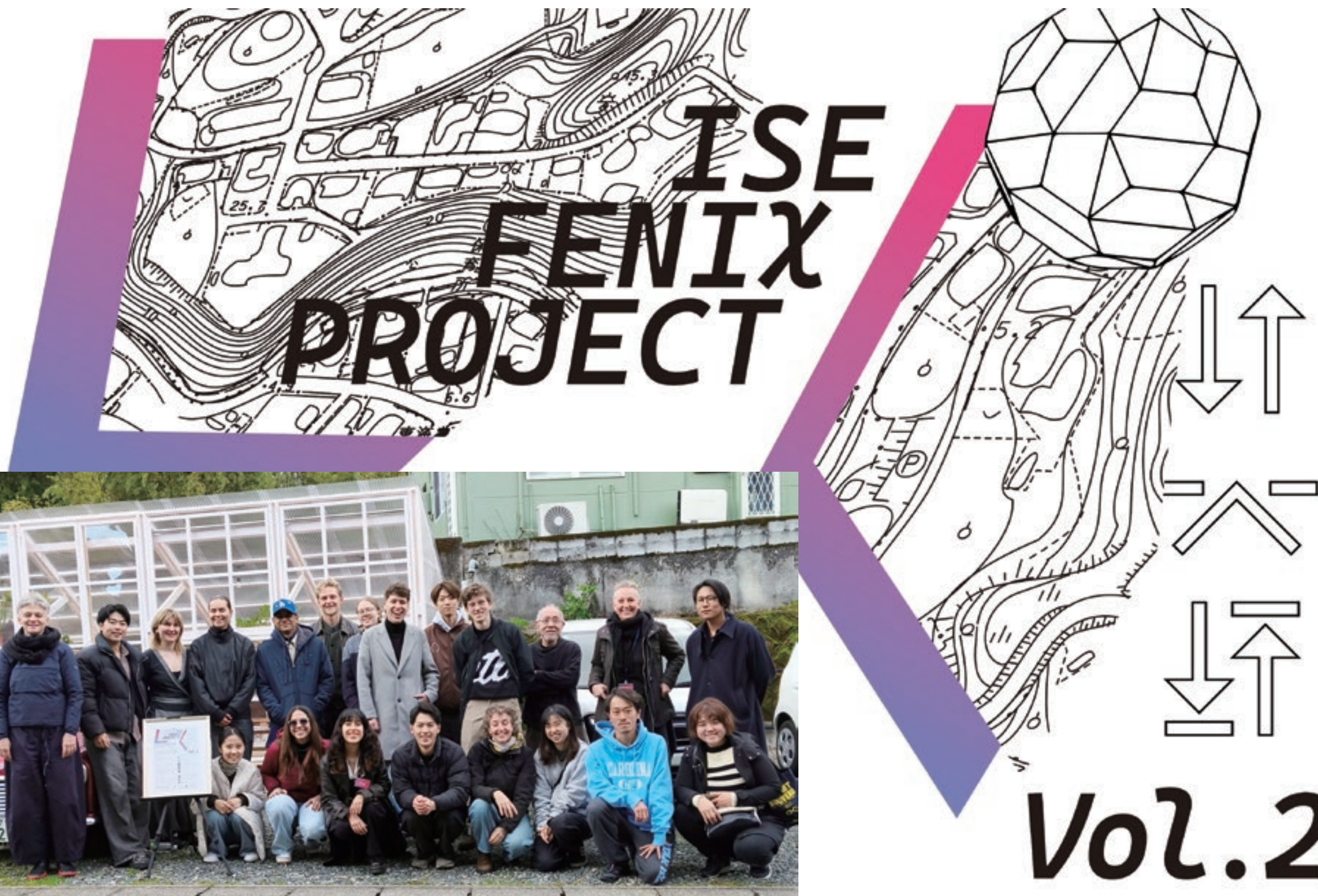
Yamamoto Seiniku-ten / 山本精肉店





Thnak you very much for your cooperation
Yamamoto Family!





ADA.TUL.CZ

avu

TUL



HKU

Creative software/digital neural network Virtual futurologist A°D°A is co-financed by the state with the support of the Technology Agency of the Czech Republic as part of the SIGMA project.